



ヒブワクチン予防接種について

光市健康増進課

◆乳幼児の細菌性髄膜炎とヒブ（インフルエンザ菌 b 型）とは

体の中でもっとも大切な部分ともいえる脳や脊髄を包んでいる膜を髄膜といい、この髄膜に細菌やウイルスが感染して炎症が起こる病気が髄膜炎です。髄膜炎には、細菌が原因の「細菌性髄膜炎」と細菌以外（ウイルスなど）が原因の「無菌性髄膜炎」がありますが、治療後の経過が悪く後遺症が残るなどのため特に問題となるのが「細菌性髄膜炎」です。細菌性髄膜炎の初期症状は、発熱や嘔吐、不機嫌、けいれんなどで、風邪などの他の病気の症状と似ているため、早期に診断することはとても難しい病気です。

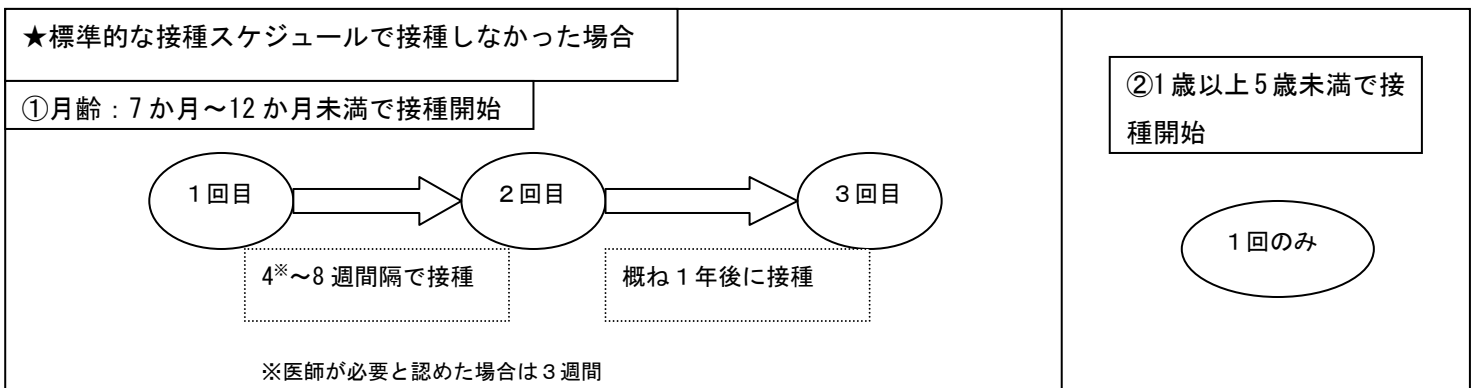
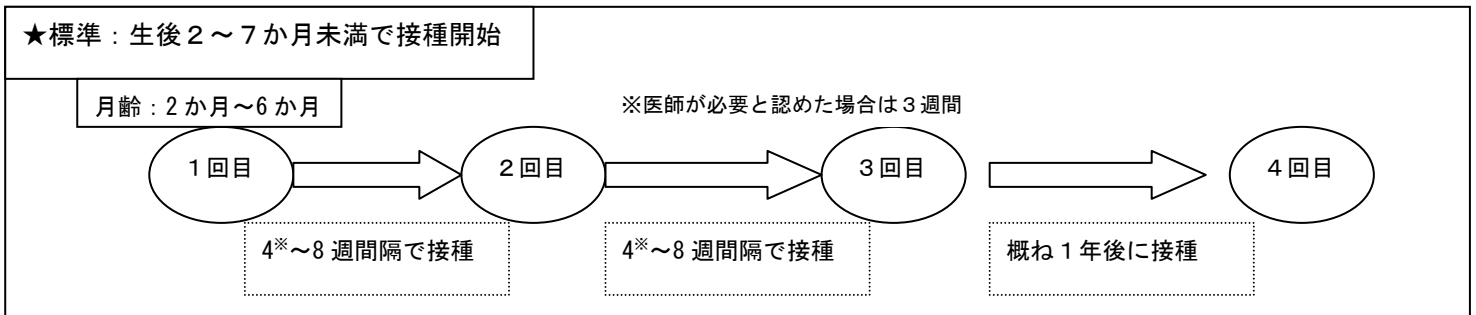
乳幼児の細菌性髄膜炎を起こす細菌はいくつかありますが、原因の半分以上を占めているのが「インフルエンザ菌 b 型」という細菌で、略して「Hib（ヒブ）」と呼ばれています。ヒブは冬に流行するインフルエンザ（流行性感冒）の原因である「インフルエンザウイルス」とはまったく別のものです。また、他の多くの細菌やウイルスとは異なり、ヒブは乳幼児に感染しても抗体（免疫）ができず、繰り返し感染することがあります。ヒブは、中耳炎、副鼻腔炎、気管支炎などの表在性感染症の他、髄膜炎、敗血症、肺炎などの重篤な深部（全身）感染症を起こす乳幼児の重篤な病原細菌です。

日本では、ヒブによる髄膜炎は年間約 600 人が発症し、約 30%が予後不良と推定されています。年齢的には 4 か月以降で、1 歳代までの発病が過半数を占めています。

◆ヒブワクチンとは（不活化ワクチン）

このワクチンは、製造の初期段階にウシの成分（フランス産ウシの肝臓および肺由来成分、ヨーロッパ産ウシの乳由来成分、米国産ウシの血液および心臓由来成分）が使用されていますが、その後の製造工程を経て、製造化されています。本剤接種による伝達海綿状脳症（TSE）伝播のリスクは理論上のリスクは否定できないものの、このワクチンを接種された人が TSE にかかる危険性はほとんどないものと考えられます。

① 接種スケジュール



※ ヒブワクチンは、医師が必要と認めた場合には、三種混合などの他のワクチンと同時に受けることができます。

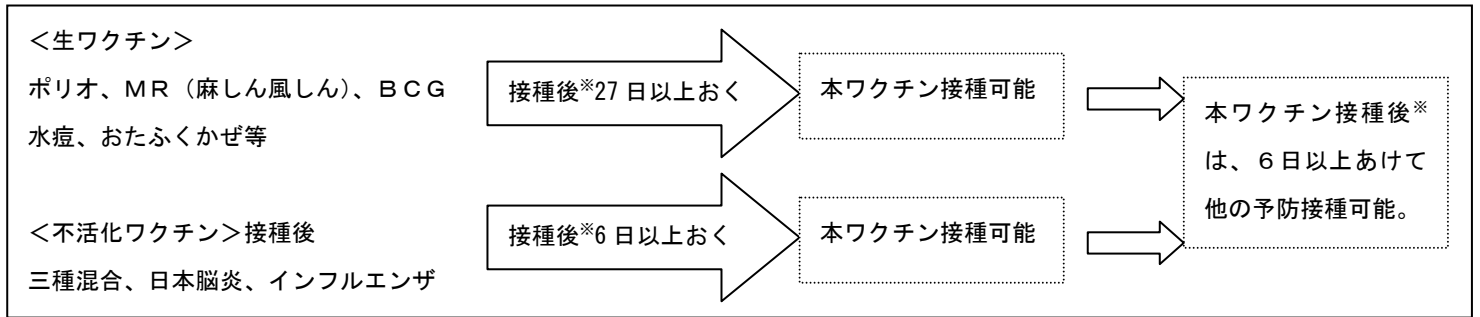
同時接種を希望する場合は、かかりつけ医に相談してください。

② 副反応

ヒブワクチンの接種後に、他のワクチン接種でも見られるのと同様の副反応がみられますが、通常は一時的なもので数日で消失します。最も多く見られる局所症状は接種部位の発赤（赤み）や腫脹（はれ）です。また発熱が接種された数%におこります。海外の報告から、全身症状としては、アナフィラキシー様症状（じんましん、呼吸困難など）やけいれん（熱性けいれんを含む）、や血小板減少性紫斑病（いずれも頻度不明）が認められています。

◆ 他の予防接種との間隔

※「接種後」とは、「ワクチンを接種した日の翌日」から起算します。



◆ 予防接種を受けに行く前の一般的な注意事項

1. 予防接種は体調の良い時に受けるのが原則です。日頃から保護者の方はお子さんの体質、体調など健康状況によく気を配ってください。そして気にかかることがあれば、あらかじめかかりつけ医等に相談してください。安全に予防接種を受けられるよう、保護者の方は、以下のことに注意の上、当日に予防接種を受けるかどうか判断してください。

★ 次の方は接種を受けないで下さい

- 1 明らかに発熱している方（通常 37.5℃以上を超える場合）
- 2 重い急性疾患にかかっていることが明らかな方
- 3 本剤の成分、または破傷風トキソイドによって、アナフィラキシーを起こしたことがあることが明らかな方
- 4 その他、かかりつけ医師に予防接種を受けないほうがよいといわれた方

★ 次の方は接種前に接種医にご相談ください。

- 1 心臓病、腎臓病、肝臓病、血液の病気、発育障害などの基礎疾患のある方。
- 2 過去に予防接種を受けた後に、2日以内に発熱の見られた方、及び全身性発疹等のアレルギーを疑う症状を呈したことがある方。
- 3 過去にけいれん（ひきつけ）をおこしたことがある方。
- 4 過去に免疫不全の診断がなされている方及び近親者に近親者に先天性免疫不全症のいる方。
- 5 本剤の成分、または破傷風トキソイドによって、アナフィラキシーを起こしたことがあることが明らかな方

2. 予診票の記入は医師への大切な情報です。お子さんの日ごろの状態をよく知っている保護者の方が記入し、同伴してください。医療機関には必ず、母子健康手帳、予診票、予防接種記録票を持参しましょう。

◆ 予防接種を受けた後の一般的な注意事項

1. 予防接種を受けた後 30 分間程度は、医療機関でお子さんの様子を観察するか、医師とすぐに連絡がとれるようにしておきましょう。急な副反応が、この間に起こることがあります。
2. 接種後、不活化ワクチンでは 1 週間は副反応の出現に注意しましょう。
3. 接種部位は清潔に保ちましょう。入浴は差し支えありませんが、接種部位をこすることはやめましょう。
4. 接種当日は、激しい運動は避けましょう。
5. 接種後、接種部位の異常な反応や体調の変化があった場合は、速やかに医師の診察を受けましょう。その場合には健康増進課へも連絡してください。

◆ 健康被害の救済について

1. 任意の予防接種は、接種を受ける法律上の努力義務はなく、被接種者及び接種医との相談によって判断し行われる仕組みになっており、使用するワクチンは厚生労働省によって薬事法上の許可がなされています。
2. 任意の予防接種で、万が一健康被害を受けた場合は、PMDA（独立行政法人医薬品医療機器総合機構）が実施する医薬品副作用被害救済制度に基づく救済対象となりますが、予防接種法による救済制度と比べて救済の対象、額などが異なります。

※給付申請の必要が生じた場合には、診察した医師、健康増進課へご相談ください。

問合せ先 光市健康増進課 (0833) 74-3007